

《 2017年12月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	10月	11月	12月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	22,011.61	22,724.96	22,764.94	0.18%	19.10%
	マザーズ指数	1,134.03	1,167.20	1,231.99	5.55%	30.69%
外国株式	S&P500	2,575.26	2,647.58	2,673.61	0.98%	19.42%
	MSCI Europe	1,770.16	1,771.14	1,796.65	1.44%	22.13%
新興国株式	上海総合指数	3,393.34	3,317.19	3,307.17	-0.30%	6.56%
	ムンバイ SENSEX	33,213.13	33,149.35	34,056.83	2.74%	27.91%
海外金利	米政策金利	1.25	1.25	1.50	-	-
	米国債 10年	2.38	2.41	2.41	-	-
国内金利	政策金利	0.10	0.10	0.10	-	-
	10年物国債	0.07	0.04	0.05	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	113.64	112.54	112.69	0.13%	-3.65%
	ユーロ	132.34	133.96	135.28	0.99%	10.01%
コモディティー	ICE 原油(先物)	66.10	71.45	70.56	-1.20%	25.06%
	COMEX 金(先物)	1,274.70	1,276.70	1,309.30	2.55%	13.43%
不動産	東証 REIT 指数	1,629.26	1,671.62	1,662.92	-0.52%	-10.39%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,265.46	1,266.30	1,275.60	0.73%	5.99%

見 通 し

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[12 月の金融市場]

12 月は米国の FOMC で大方の予想通り 25 ベーシスポイントの利上げを行われましたが、特に影響は見られず、新興市場株なども安定した動きとなりました。それ以降は大きな動きもなく株式の出来高は細まりました。日経平均株価は 23,000 円手前で狭いレンジの取引となり、前月末比%の円で 12 月の取引を終了しました。

日米ともに長期金利は上昇する展開となりましたが、日本に比べて米国の金利の上昇幅が大きく、ドル円は円安ドル高に動きました。その他、商品市場でも価格上昇が目立ち、WTI 原油が 2 年半ぶりに 60 ドルに乗せる場面があり、銅は 3 年ぶりの高値を取りました。

[今後の見通し]

「7 の付く年は暴落の年だ」などと言われていましたが、年の終わりを迎えると大方の予想とは異なり、株式のパフォーマンスが良好な年となりました。各地で問題は燻っているものの、世界中で金融緩和の効果が徐々に、確実に実感されています。商品価格の上昇はインフレが世界に戻ってきたことを窺わせます。この辺りは来年の投資戦略にしっかりと組み込んでおいた方が良いでしょう。

年末の高値でのみみあい、今後の上振れへの予兆のようにとらえられます。長年デフレに苦しんできた日本経済がもしその呪縛から解放されるのであれば、その反動は非常に強いものとなると考えています。新たな年の投資計画には「日本株を持たざるリスク」も組み込んでおくべきかもしれません。

見 通 し

◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

[12 月のヘッジファンド動向]

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社(HFR 社)のヘッジファンドインデックスは 12 月もプラスとなり、14 ヶ月連続の上昇となりました。この月もヘッジファンドの主要な投資先である株式市場が堅調だったことに加え、商品市況の上昇なども寄与し、全ての戦略でプラスとなりました。そのなかで 1.99%と最も高い成績を上げたのが CTA 戦略です。その背景には 3 年ぶりの高値となった原油(WTI)先物相場があります。CTA 戦略の取引対象は株式だけではなく多岐に渡って

おり、なかでも WTI 先物市場は取引主体としてしばしば注目を集めます。かつて WTI が 100 ドルを突破した 2008 年や 2011 年にもその存在が際立ちました。そのほか、株式ロング・ショート戦略も高値を付ける株式市場の恩恵を受けて成績を伸ばし、マクロ戦略も各資産が低ボラティリティの中で推移したことで緻密な戦略が実を結んでいます。

2017 年は世界経済全体が好調で、株式はもとより、債券や商品・金に至るまでほぼ全面高の様相を呈しました。本来好景気の中では債券からリスクの高い株式などへ資金シフトが起こり金利の上昇を招くものですが、各国中央銀行の低金利政策の継続を背景にその現象はほとんど見られませんでした。米国については 2017 年に 3 回利上げを実施しましたが市場への配慮が高く、金利の上昇は極めて緩やかなものにとどまっています。ドルインデックスの下落からも資金の米ドル回帰は見られず、世界経済への影響は限定的であることが窺えます。この様な環境の中でヘッジファンドも好成績を残すことが出来ました。年間では 5.99% と、近年では 2013 年の 6.72% に次ぐ成績となっています。2018 年もこの好環境が続くことが想定されますが、好景気に伴う金利上昇や地政学リスクの台頭など懸念要因もなくはありません。これらのリスクが表面化してきた時にこそ、絶対リターンを求めるヘッジファンドの本領が発揮されることでしょう。

【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績(月別騰落率)】

	2017 年						
	過去 12 ヶ月	12 月	11 月	10 月	9 月	8 月	7 月
ヘッジファンド・インデックス	5.99%	0.73%	0.07%	0.69%	0.60%	0.29%	0.93%
株式ロング・ショート	9.98%	1.03%	0.87%	0.79%	1.82%	0.50%	0.87%
イベント・ドリブン	6.48%	0.39%	-0.35%	-0.13%	0.79%	0.08%	1.00%
レラティブ・バリュー	3.80%	0.67%	-0.25%	0.52%	0.25%	-0.05%	0.91%
マクロ	2.51%	0.82%	-0.15%	1.92%	-1.03%	0.76%	0.94%
CTA	5.05%	1.99%	1.31%	3.67%	-1.80%	1.08%	1.63%

そうだったのか！「知って納得、証券投資」 vol. 102

個別銘柄の探し方

[身近に起こる出来事から]

街を歩いていて目的に店に行くと長蛇の列で入れなかったことや、お子様やお孫さんが欲しがらるおもちゃが、実店舗にもネットショップにもなく買えないというようなご経験をお持ちでしょうか？

そのような際にその企業に関して調査してみると、その企業の業績は拡大しているかもしれません。その結果をみて株式を購入すれば、後々お孫さんが欲しがっていたおもちゃが大量に購入できるくらいの利益になるかも知れません。

身の回りの出来事にアンテナを張る企業の探し方は重要であり、成果の出やすい方法と言えます。このような経験を投資に落とし込むのは、良い投資を行うために是非忘れないようにしたい手段です。しかし行列ができているからと飛びつくのはお勧めしません。興奮を抑え、一旦、業績を確認することは重要です。もしかしたら、その行列はお金を払って作られたものかもしれないからです。

しかし、投資のアイデアを練るために身近で起こることを参考にすることは非常に重要です。

[政府資料などから]

そのほかの方法として政府の目標などを基に、それに関連する企業を探す方法があります。

ここでは 2017 年 10 月に経済産業省が発表した「Connected Industries」東京イニシアティブ 2017 という資料を見ながら解説したいと思います。

「Connected Industries」東京イニシアティブ 2017

<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171002012/20171002012.html>

ここでは、今後の日本の産業が目指すべきコンセプトが示されています。

「Connected Industries」東京イニシアティブ 2017 の重要取り組み分野は以下の 5 つとなっています。

- ①自動走行・モビリティサービス
- ②モノづくり・ロボティクス
- ③プラント・インフラ保安
- ④スマートライフ
- ⑤バイオ・素材

また、これらの 5 分野を横断的に支援するために、データの共有や有効活用が掲げられています。様々な業種、企業、人、機械、データがつながり、人工知能(AI)などによって新たな付加価値や製品・サービスを創出、生産性を向上し、高齢化、人手不足、環境・エネルギー制約などの社会課題を解決することにより、産業競争力の強化を目指すようです。

この資料から必要なものを想像してみましょう。

街中のデータを集めるためにはカメラやセンサーが必要となります。それらのデータを集めるデータセンターもしくはクラウドサーバーが必要となります。そして、それらのデータを多くの人が活用できるようにするためには、早いネット回線が必要となります。また、多くのデータを扱うためにコンピューティングパワーもより重要となります。色々なものを動かすとすれば発電施設の増強も必要でしょう。

上記は私の作ったビジョンですが、これ以外にもいろいろと想像することはできると思います。そしてそれが実現した場合、活躍するであろう銘柄をピックアップします。例えば、ネット回線が重要となるのであれば電線関連企業をグーグルで調べます。そして業績を見て、そこに影響が見られ始めているのであれば、買いを検討します。

このように自分のビジョンを作り、それにかかわる企業を調べるのも、投資先を検討する際の良い手段です。

[業績発表から]

上場企業は年4回決算を発表しています。その資料は各企業のページにあります。適時開示情報閲覧サービス(TDnet)というサイトで、直近の1カ月分が閲覧できます。

適時開示情報閲覧サービス

https://www.release.tdnet.info/inbs/1_main_00.html

このページで、決算発表が多く行われる時期に、好決算銘柄や失望決算銘柄を探すのは非常に株式投資で収益を得るのに有用です。

ここで多くの決算を読むことにより、世の中の新たな流れを知ることができ、それも投資成績の向上につながります。

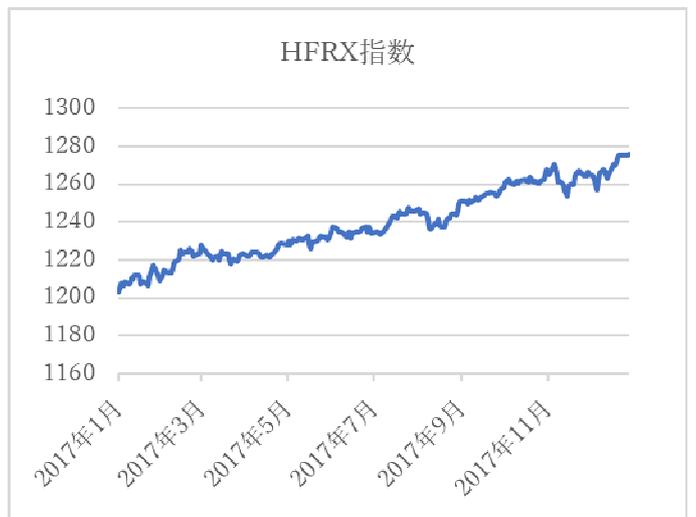
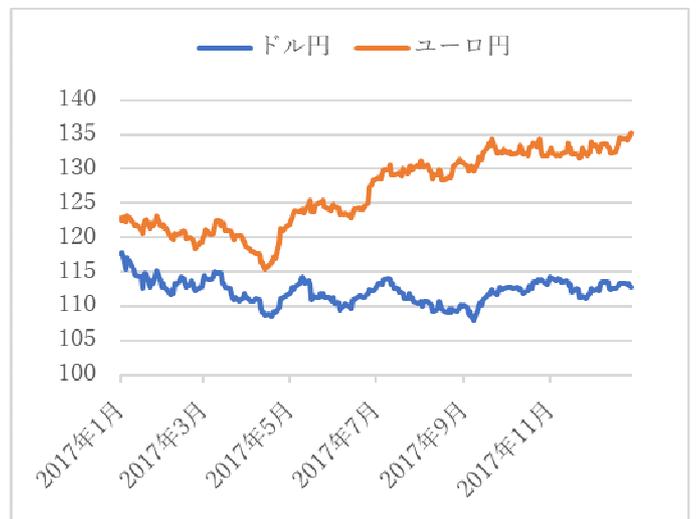
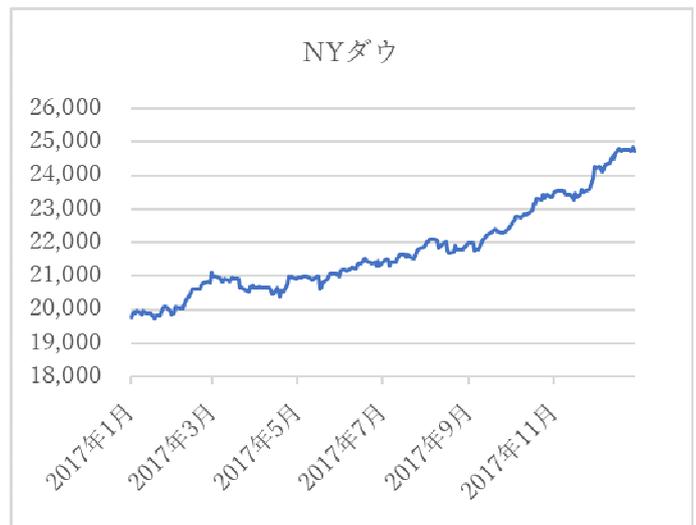
[まとめ]

上記にまとめたような投資アイデアの作成は、時間が非常にかかるため面倒に思えるかもしれませんが。しかしこのようなことを繰り返すことにより、投資にかかわる頭脳が鍛えられていきます。長年継続することにより、表面的なことしか見ずに投資を行っている人とは実力が異なるようになります。投資は2,3年で終わる作業ではなく、もし30歳で始めれば50年以上行うものとなります。その間このような作業を継続していれば、実力差がつくことは明白でしょう。

作業の効率化のために様々なサイトを活用することも考えたいところです。重要な情報を漏らさないように、効率的なワークフローを考え上げ、そこで得た情報から投資で利益が得られるようになれば、その再現性も高くなります。

投資の再現性が上がれば、あとはその投資方法で利益を繰り返し上げて行くだけです。その過程では、投資環境などの変化により、手法の改善は必要となるでしょうが、大きな利益を生み出せるようになるでしょう。

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 … 小川 英幸

オルタナティブ(ヘッジファンド) … 樋爪 功次

そうだったのか!「知って納得、証券投資」Vol.102
個別銘柄の探し方 … 小川 英幸

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

本資料の表・グラフのデータ出所: THOMSON REUTERS

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号 加入協会: 日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL: 06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL: 03-3667-7721

